

写真によせて

ヴェロニカ・ラヌギノサ

Veronica lanuginosa

札幌市 梅沢 俊

本号は高山植物特集ということなので、私をもっとも高い場所で撮影した花を選んでみた。2018年夏にようやく出会えた花である。一度見てみたいと思いつつ、毎年夏はヒマラヤを歩いているのだがこれまで出会えないでいた花なのでもある。

『朝日週刊百科・植物の世界』15号に吉田外司夫さんの写真が大きく掲載されているが、その説明に“ヒマラヤの上部高山帯の、砂礫地や岩の間にまれに見られる。”とある。“まれ”とあるので会うことを半ば諦めながらも撮影データを見ると標高5100mとある。同じ吉田さんの著作『ヒマラヤ植物大図鑑』では標高5200mである。

私のヒマラヤ歩きはせいぜい4500mまでで、こんな低い所(笑)では出会えないらしいのだった。とはいえ、どうやらまだ可能性は残されたらしい。

2018年夏はブータンでの高所順応後、ネパール中部のマナスル山群に分け入った。北部のラルキャ・ラという5106mの峠を越えるのが心配だったが、割とあっけなくたどり着いてしまった。その喜びに花を添えてくれたのがこのヴェロニカ・ラヌギノサであった。

種小名が意味するように、全体が軟毛に覆われ、花冠は北海道に産する同属のキクバクワガタやオオイヌノフグリのように裂片が平開しないで筒状になって花の内部を守っているように見える。まあ高山植物の鏡のような存在でしょうな。

さてこれでめでたしと思いきや、心残りがひとつ。撮影したのが記録用のサブカメラなのである。理由は単純、充電したメインカメラの電池をカトマンズに置いて来てしまったのである。写真家としては恥ずかしい限りだ。喜びも中くらいかなおらが夏。

2019年の夏も5000m級の峠を越えるつもりである。はたして…

大雪山

美唄市 新田 紀敏

もう40年前になりますが、学生時代に夏休みになるとよく大雪山に登りました。当時あった高山植物図鑑を片手に一生懸命覚えながら歩くのですが、学業の影響で？いつも8月になってしまい、高山植物の花は思ったより少ないとの印象を持ったのを覚えています。その後卒業してからは7月に登るようになり、時期が遅かったと気づき、目も肥えてきたので毎年のように楽しめるようになりました。

それからずいぶん年が流れましたが、アルバムを見るといつも同じようなメンバーが顔をそろえています。特にお気に入りにはホソバウルップソウ。ウラシマツツジも好きな植物ですが、なかなか花に出会えず手持ちの写真は紅葉ばかりでした。6月の高根ヶ原でようやく撮った1枚です。

いずれも赤岳から高根ヶ原周辺でチョウノスケソウは2006年7月10日と2010年7月11日、ウラシマツツジとコメバツガザクラは2017年6月18日、それ以外は2012年6月30日撮影。

大雪山

札幌市 本多 丘人

チシマツガザクラ

道内では、エゾノツガザクラ、アオノツガザクラとそれらの雑種があちこちで見られます。しかしチシマツガザクラはツガザクラの名前はついていてもこれらとは縁もゆかりもない別属の花。ガンコウランなどと同様にマット状に広がる低木です。つぼみも花も小さいながら華やかなのですが、地面から数センチの高さしかないので、しっかり見たり撮ったりするには辛い姿勢を強いられます。2012. 7. 21 赤岳

クモマユキノシタ

あまり目立たず力強さを秘めながらも静かな佇まいの花。ほとんど群れることはなく、広い礫地にポツリポツリと散らばっている印象です。じっくり眺めると花弁が面白いのですが、咲いていてもほぼ見向きもされません。けれどもそこがまたいい、と思う自分は変なのかなとも思います。2012. 7. 21 小泉岳

リシリリンドウ

高所に咲く這いつくばり系のリンドウには、ミヤマリンドウ、リシリリンドウ、ヨコヤマリンドウがあります。ヨコヤマは数がかなり少ないだけでなく黒っぽくて目立たないので本気で探さないと見つけれられません。ミヤマは高いところに行きさえすればあちこちで咲いています。このリシリリンドウは、ないのかなと思えばちゃんとあるといった存在感。形も色もスッキリしているのがいいですね。ただし、花が開いていないと私にはミヤマとの区別がつきません。2012. 7. 21 小泉岳

キバナシオガマ

銀泉台から駒草平まで登ると、風衝地の高山植物が現れます。多くの方はコマクサに見られる場所ですが、自分にとってはこちらキバナ

シオガマの方が好みです。縮れたように見える葉っぱなど、いかにも北方系の花という感じがするからでしょうか。大雪山にしかないという稀少性も魅力です。慣れ親しんでいたゴマノハグサ科から、学問の進歩とはいえ、仲間たちとともにハマウツボ科に引っ越してしまったのが残念です。2017. 7. 7 赤岳

知床の高山植物

斜里町 内田 暁友

シレトコスミレ

硫黄山や遠音別岳周辺など、硫気のある風衝地に生育する堇で、周辺の砂礫は硫気で漂白されています。咲き始めには花柄はまっすぐ立っており、徐々に倒れていって最後には果実が石の上に寝そべります。またシレトコスミレに遠慮しているのかは分かりませんが、知床の高山にタカネスミレが分布していないのは不思議なことです。いつか択捉島の産地にも訪れてみたいものです。2014. 6. 30 硫黄山

エゾノミヤマアザミ

かつて知床からミヤマサワアザミと報告されていたものは本種で、門田裕一さんによって2013年に新種として発表されました。和名は小泉源一(札幌農学校卒)によるもので、学名は大雪山の父として知られる小泉秀雄(源一の弟)が用意したものを門田さんと梅沢俊さんを命名者として正式発表されたものです。総苞片が11-12列で腺体を欠き、茎に翼があり、花期に根出葉が残ります。

2010. 8. 13 二ツ池

タカネタチツボスミレ

雪田に生育する堇で、咲き始めは花茎がないように見えますが、季節が進むと花茎が伸

びて別の種のように見えることも。湿原に生育するオオバタチツボスミレと同種とされることがありますが一見して印象が異なり、どうして両種が近縁なのかと不思議に思うかもしれません。しかし同定に使う形質を細かく観察すれば両種の区別点は微妙で、確かに似ているなあという結論になるのが面白いです。

2012. 7. 20 三ツ峰

ラウススゲ

かつて知床からオハグロスゲと報告されていたものは本種で、勝山輝男さんによって1995年に日本新産種として発表された経緯は本誌20号に詳しく書かれています。羅臼湖、二ツ池、知床沼など湿原周辺に生育し、よくふくらむ果胞がやや褐色を帯び、柱頭は3分岐、花後も花柱が残りやすいことが特徴です。果胞の脈上のトゲは目立たないことがあり、注意が必要です。2012. 7. 19 二ツ池

ニセコ

倶知安町 藤田 豊

ニセコ山系はアンヌプリ・イワオヌプリ・ワイスホルン・チセヌプリ・ニトヌプリの5連山で形成され、倶知安町・ニセコ町・蘭越町・共和町の地域にまたがっています。

コヨウラクツツジ (ツツジ科)

ニセコ山系の登山道付近で点在していて、エゾノコリンゴのようにも見えますが壺状で5裂する赤紫色の花が腺毛を付けた長い柄にぶら下がっています。この姿がとても綺麗で躍動感を感じる初夏にふさわしい花です。

1998. 6. 2 ニトヌプリ

エゾオヤマリンドウ (リンドウ科)

イワオヌプリの山頂。登山道からは見えにく

い場所ではありますがかなり大きい群生地があります。青紫色でねじれた花冠がとても美しく、群生が満開になる時は更に美しさを増します。本で読んだか、誰かに聞いたか定かではありませんが、ミツバチが花をこじ開けて入るとか。何度見てもあきない色と形です。

2002. 8. 30 イワオヌプリ

ガンコウラン (ツツジ科)

イワオヌプリの登山道入口からよく見られますが、群生地はイワオヌプリからニトヌプリの分岐を降りた辺り。雌雄異株で、雄花は長い柄の雄しべが3個あり全体に深紅色でかなり派手、それに対して雌花は細い葉と茎の付け根に5個の花柱を持つ小さな花を1個付け、色は紫黒色で地味です。人間社会と違って目立っているのは雄花です。2003. 7. 2 イワオヌプリ

ムラサキヤシオツツジ (ツツジ科)

ニセコ山系の登山道を歩くと遠くからでもよく目立つ紅紫色の花。側に寄ってよく見ると雄しべは10本ありますが上部の5本は短く下部の5本は長くて先は上に反る。花柱も長くて先は上に大きく曲がる。「早く写真撮って」と言っているようなのでシャッターを切った。

2015. 6. 27 イワオヌプリ

ムカゴトラノオ (タデ科)

ニセコ山系で一番高い山アンヌプリ。登山道は単純なジクザク道。山頂やや手前の登山道の脇に隠れるように咲いていた花がムカゴトラノオでした。よく見ると葯の紫色が綺麗でした。「下部の花はムカゴとなる」と図鑑に書かれているので今度は是非見てみたいものです。

2005. 7. 13 アンヌプリ

アカモノは2018年7月7日の観察会で写したものです(新田)。

阿寒・釧路海岸

釧路市 佐藤 照雄

コイチヨウラン

このランは雌阿寒岳山麓や根室の落石岬などで見てきましたが、雌阿寒岳の登山道付近で見るシダ類に囲まれたコイチヨウランの風情は他にないと思込んでいます。しかもこの写真の高山性シダ(エゾノコスギランか?)は、小さなコイチヨウランの美しい花姿を最高に引き立ててくれています。2015年8月8日、雄阿寒岳2合目付近で撮影。

ヒメミヤマウズラ

この写真は2018年7月16日に標高685mの鶴見峠で撮影。あまり人の目につかない林縁の笹原の中に、少数が分布しています。釧路湿原などに群生するベニバナイチヤクソウに比べて、清楚な白い花冠が印象的です。

イソツツジ

この写真は2017年6月25日、白糠町和天別で撮影した。ここは海岸に近い高層湿原で、堤防工事で一部は削られたもののあまり知られておらず、ほとんど手付かずのまま残されています。写真のイソツツジやワタスゲを中心に、希少なミツガシワ、ツルコケモモ、チシマウスバスマスミレなどが生育し、周辺の草地にはシロスマスミレやトヨコロスマスミレ、フタマタイチゲなどが群生しています。野の花好きなら感動の絶景でしょう。私は珍しい野生ランに出会えるのを楽しみに毎年訪れているのですが、今のところ歓迎してくれるのはネジバナだけです。

コケモモ

かつて釧路の海岸線では至る所でコケモモが群生していました。しかし、開発と盗掘の憂き目にあい今は見る影もありませんが、それでも湿った所々で身を隠すように群生しているのを見ることができます。2018年5月27日、

白糠町恋間で撮影。

イワツツジ

この写真は厚岸町の高層湿原で撮影したもので、2015年6月に根室市浜松の湿地で見て以来2度目の出会いでした。垂高山の岩場などに生えることで知られていますが、釧路と根室の海岸地帯では苔むす針葉樹林下の谷地坊主のある湿地に生え、分布地は少ないようです。この日はイチヨウランを探して湿地に入り偶然の出会いでした。2018年6月19日、厚岸町で撮影。

ツルコケモモ

主に高層湿原に生えるツルコケモモは、釧路や根室地方では6月下旬ころから、旧音別町のキナシベツ湿原や白糠町の恋問の海岸線から、浜中町琵琶瀬の湿地などのほか根室の海岸線などの湿地に見られ、分布地と個体数はかなり多い。この写真は釧路市と釧路湿原が接し市街地開発で残された唯一の高層湿原で撮影したのですが、希少なトキソウやヤチツツジが群生するすぐ側まで大規模なソーラー発電施設が迫ってきており、毎年不安な気持ちで観察を続けています。2016年7月2日、釧路市愛国湿原で撮影。

ツクモグサ (裏表紙)

美唄市 新田 紀敏

旭川に住んでいたとき、毎年のように芦別岳に登っていました。上のほうはまだ大きな雪渓が残っている5月末から6月頭、その年1年の足慣らしでした。山頂の一角に咲くこの花はいつも迎えてくれました。どうしてこんな山頂の岩場に固執しているのか実に不思議です。

芦別岳山頂 2009. 5. 30